

よみがえる夏の日

<今月の聖句> 「隣人を自分のように愛しなさい」
マルコによる福音書 12章 29~31節

梅雨の真ただ中っていると、早く夏にならないかと
そこここにきざしを探してしまう。
厚い雲の間から、一瞬、顔をのぞかせる抜けるような青空。
日中の湿った空気をすり抜けて吹き寄せる夕暮れの涼やかな風。
その風をうけながら、つがいでさえすり、呼びかけあう小鳥たち。
そんな「夏」を探して、園庭を歩いていたとき
足元に動くものが。
立派な触覚を左右に伸ばし、
ムクノキの根元に陣取っていたのは
カ・ミ・キ・リ・ム・シ。
全身をおおう白い斑点から
シラフヒゲナガカミキリかゴマダラカミキリか。
夕方、子どもたちのいない園庭の真ん中で
悠々と樹液にあずかるその姿。
かつて甲虫をさがし野山を巡った
子ども時代が一気によみがえる。
あのとときも夏だった、でも、暑いなんて感じるひまもなかった。
夢中で、虫や貝殻を探し、波や清流と戯れていたからだろう。
ただ、日差しがとてもまぶしかったことは覚えている。
そんな夏がもうすぐやってくる。
大自然からのほんのちょっとしたメッセージを見逃さぬ感性。
それを見守るゆったりとした時間を、子どもたちに贈りたい。
(つくし保育園園長 つだかずお)



※こどもの教会のお知らせ

毎日曜日あさ 10時 30分、だいが教会礼拝堂
わかりやすい聖書のお話、さんびか、
誕生会でみんなと聞いた楽しい物語を親子でも一緒に。